

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2374000384
法人名	医療法人 静巖堂医院
事業所名	グループホーム 好日庵
訪問調査日	平成21年2月20日
評価確定日	平成21年3月24日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2374000384		
法人名	医療法人 静巖堂医院		
事業所名	グループホーム 好日庵		
所在地	新城市副川字大貝津13 (電話) 0536-35-6100		

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成21年2月20日	評価確定日	平成21年3月24日

【情報提供票より】(平成21年2月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年2月1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 5.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	23,500 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(80,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(平成21年2月2日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	4名	要介護2	3名			
要介護3	0名	要介護4	1名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	85 歳	最低	74 歳	最高	101 歳
協力医療機関名	医療法人 静巖堂医院					

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人静巖堂病院の事業の一つであるホームは3階建ての建物の中にある。1階は医院、デイケアセンター、訪問リハビリ、2階は介護療養型医療施設、3階に居宅介護支援センターとグループホーム好日庵がある。ホーム名は禅語の一日一日を全身全霊で生きることの「日々是好日」から採っている。職員は認知症ケアの専門職として資格取得者が多く、ケアに「バリエーション」を取り入れ、入居者には尊敬と共感をもって関わっている。日々の会話の中で何気なくおしゃべりをしながら、話の内容に注意深く耳を傾けコミュニケーションを図り、個人を中心にしたその人らしさを大切にするケアを行なっている。また、週1回グループバリエーションを行い、役割をもつことで自信に繋がりが会の終了時には皆元気になっている。地域の人との関わりもでき、いろいろ声をかけてもらうようになった。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着型サービスとしての理念に「地域の人とのかかわりを大切にして」の文章を追加し、地域のいろいろな方とかかわりを持つことで、自然と声をかけてもらうようになった。また、同業者との相互訪問を行うなど改善に取り組んだ。しかし、昼食時は職員の要望で現状のまま見守りをしている。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員全員で行ない管理者がまとめた。管理者は職員一人ひとりの考え方がわかり、振り返りの良い機会と捉えている。職員からは「文章にするのは大変だったが、改めて気づくことができた。」との声があり、日常のケアの見直しになっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は多彩なメンバーで3カ月に1回開催している。地域住民の代表として毎回入居者と馴染みの方(床屋・喫茶店・コンビニ・小学校の校長・駐在所など)に参加をお願いし、ホームの運営を知ってもらっている。会議では入居者の様子や行事予定、外部評価などの報告と毎回テーマを決めて話し合い、メンバーから意見やアドバイスを受けより質の高いサービスを目指している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 年に3回家族会を開催し家族から意見や要望など聞く機会がある。また、職員は家族の訪問時にも声をかけ、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。玄関に意見箱を設置し家族が気兼ねなく意見や苦情など言えるよう配慮されている。苦情相談窓口については契約時に説明を行なっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し回覧板から情報を得て行事に参加したり、入居者と一緒に回覧板を届けている。3カ月に1回ホームを知ってもらうために「好日庵からこんにちは」の情報誌を地域に回覧している。地域の方から野菜や花など届けていただいたり、栗拾いの招待、お餅つきに参加してもらうなど交流ができてきた。また、地域のために毎月1回職員と一緒にほうきと雑巾を持参してバス停の掃除を行なっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の経営理念の中に「地域の人とのかかわりを大切にしてその人らしい生活が継続できるように、良きパートナーとして一緒にお手伝いさせていただきます。」とあり、地域密着型サービスとしての役割を反映したものになっている。職員は尊敬と共感をもって入居者のありのままを受入れ、安心して暮らし続けるよう支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や事務所に掲示し、月1回のミーティングの中で理念について話し合い、職員の意識向上に努めている。ホームの年間目標にその人を中心とした介護「パーソンセンタードケア」を採り入れ、環境、入浴、献立など見直している。職員は「その時」を大切に入居者の立場に立って考え、理念を念頭にケアの提供に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し回覧板から地域の情報を得たり、入居者が回覧板を届けることで顔見知りになり、散歩時には挨拶をかわしている。ホームを理解してもらうために、「好日庵からこんにちは」の情報誌を回覧している。小学校の運動会、学芸会の見学や敬老の日には手紙が届き返事を出し、近隣の方から野菜や花など届けていただき、地域住民との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が取り組んだ。管理者は取りまとめることで職員一人ひとりの考え方や、同じ視点で捉えていることが分かった。職員から「文章にするのは大変だったが、改めて気づくことができた」との声があり、日常業務の見直しや振り返りのよい機会になっている。前回の課題については管理者と職員で話し合い改善に向け取り組んだ。しかし、昼食については職員の要望で今まで通り見守りをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、地域住民代表、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、介護支援専門員の参加のもと3カ月に1回開催している。会議ではホームの近況報告、行事予定、外部評価の報告、毎回テーマを決めて話し合い、メンバーから意見や助言、情報を得てサービスの質の向上に努めている。議事録を全家族に配布している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「好日庵からこんにちは」の情報誌や家族会、運営推進会議の議事録など届けながら事業所の状況を伝えている。また、資料や情報も収集するよう努めている。ホームを開設して3年経過したことで、共用型デイサービスとショートステイのサービスが可能となり、5月開始に向けいろいろと相談しアドバイスを受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2カ月に1回入居者の様子（健康管理状況、生活状況、今月のエピソード、連絡事項）を担当職員が書いた物や、3カ月に1回「好日庵からこんにちは」の情報誌を家族に郵送している。家族の訪問時にも職員は入居者の日頃の様子を伝え、何かあればその都度電話で報告している。金銭管理は毎月領収書と共に出納報告書を送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が年3回開催され家族から意見や苦情など聞く機会がある。訪問時にも職員は家族と話を持つ機会をつくり、家族の困っていることや不安など聞くよう心がけている。家族アンケートにも「家族の話にもとてもよく耳を傾けてくれるので、話や相談がしやすい」と評価を得ている。意見箱を玄関に設置し苦情相談窓口については契約時に説明している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の体調に気を配り、コミュニケーションをよく取るように心がけ、勤務表には本人の希望をなるべく取り入れるなど、働きやすい職場作りに努めている。また、個人的なことでも全体の問題として取り上げ、皆で話し合うようにしている。その結果開設以来退職者は無く、法人内部で1名の異動のみで、入居者は馴染みの職員と日々安心して暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームではミーティング時に勉強会（虐待の防止、ショートミーティングの効果的な生かし方など）を行ない、法人内の各委員会が主催するKYT（危険予知トレーニング）やAEDなどの内部研修にも参加している。外部研修に参加したら報告書を記入し、会議で報告し職員は情報を共有している。管理者は職員の経験年数により研修会や資格試験の情報を提供し、勤務に配慮するなどしてサービスの質の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会や愛知県認知症グループホーム連絡協議会、認知症ケア学会に加入し、研修会や講演会に参加することで交流を図り、情報交換を行なっている。市内の他のグループホームと入居者と共に相互訪問を行ない、お互いのサービスの状況を確認し、ホームの質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談があればまず見学に来てもらいホームの雰囲気を見ていただいている。その後必要に応じて家庭訪問をし、本人や家族から生活歴や身体状況などの聞き取り調査を行なう。管理者は本人が混乱するので家族には「絶対に嘘をついてホームに連れて来ないで下さい」と伝えている。入居後はコミュニケーションを密にし安心して生活ができるような環境づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で調理、洗濯、掃除などできることは職員と一緒にしている。また、入居者の得意分野の畑仕事や裁縫、梅酒、梅干し作りなどで力を発揮し、職員はいろいろ教えてもらっている。お互いできること、できないことを補いながら共に支え合う関係を築いている。入居者から「大変だね。ご苦労様」と労いの言葉をかけてくれ職員の励みになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の関わりの中でゆっくりと話す時間を持ち、日常の会話の中から一人ひとりの希望や意向を把握するよう努めている。自分で思いが伝えられない方には日頃の表情や行動などから汲み取っている。半年に1回センター方式を活用して(できること、できないことなど)アセスメントを行ない、常に新しい情報を職員全体で共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の思いや意見、要望を反映した介護計画を作成しており、日々の生活が介護計画に添って実施されている。入居者がその人らしい、より良い暮らしができる計画になっているか、職員はケアプラン実施表でチェックしながら、常に入居者の現状の把握に努めている。これらの情報は、毎日のショートミーティングや月1回の全員参加のミーティングで話し合い、意見交換をしながら情報の共有に努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>設定された期間での介護計画の見直しの他、入居者の現状が介護計画と合わなかったり、入居者や家族の要望に変化が生じた場合など、実情に即した計画の見直しを行っている。また、入居者の状態に変化が診られた場合、その都度、ショートミーティングやケアカンファレンスを行い、臨機応変により良い介護計画の見直しに取り組み、家族に伝え同意を得ている。設定された介護計画の見直し前に、サービス担当者会議を開き、協力医や本人、家族、管理者、計画作成担当者、担当職員が参加して行われている。職員にはショートミーティングで伝えられ、共有している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算を受けており、また、共用型デイサービスとショートステイを実施する方向で検討中である。一人住まいであった入居者の自宅の鍵を預かり、入居者の希望により帰宅支援を行い、本人が落ち着き安心できるよう配慮している。入院中の入居者には、見舞いに行き、本人や家族と話し合い、情報を収集しつつ、退院に向けた支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に以前からのかかりつけ医か、ホーム協力医かの希望を聞いているが、家族の希望により、ホームの運営法人である病院を全員がかかりつけ医としている。月2回併設の病院へ、職員が付き添って受診している。歯科や皮膚科、眼科などの他の診療科目の受診については、必要な時はホームから入居者の情報を提供し、家族が付き添っている。なお、服薬等の情報は、家族から受けてファイルしている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りに関する指針及び終末期の看取りについてのマニュアル等は整備されているが、内容の見直しを検討中である。また、入居契約時に終末期についての意向調査を実施することとし、入居者には意向確認を行い同意を得ている。なお、1年毎に意向確認を行うこととしている。終末期について、入居者、家族とホームが話し合い、医療関係者などの連携を密にすると共に、職員には勉強会を通じて情報を共有し、入居者、家族の意向に添った支援を考えている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>法人内に個人情報保護委員会が設けられ、ホームから職員が参加している。プライバシーの保護については、個人情報対応マニュアルや就業規則で決められ、守秘義務については、雇用契約の中で規定されている。管理者は職員に、入居者に対する言葉づかいに十分配慮するよう指示し、職員は実践している。記録は見守りをしながらフロアで行い、入居者には記録の内容の納得を得ながら記載している。書類は事務所内で保管し、破棄する時はシュレッダーをかける。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調や気持ちを尊重し、～しましようと言うことはせず入居者のペースを大切に、その人らしく過ごせるよう支援している。訪問時カラオケを楽しんでいる人、会話をしている人、居室を片付けている人など思い思いに過ごしている姿がうかがえた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は職員がさりげなく見守りながら、入居者同士楽しく食べることができるよう配慮している。屋外で食事をする日を設けたり、お寿司を手作りして楽しんでいる。また、ホームの畑で収穫した作物を食材にしたり、季節には近くの山へ、山菜を採りに入居者と一緒に行き、それを食材にしている。調理は入居者ができることは行い、下準備、盛り付け、片付け等も一緒に行っている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>浴室は広く、車椅子利用や複数の介助者対応が可能である。入浴は1日おきで時間は午後に行っているが、以前入居者の希望によって、随時入浴対応していたが、職員の勤務形態を変更したり、他の行事に支障が出たりしたため、現行になっている。入浴を嫌がる入居者には、さりげなく誘導し、タイミングを見ながら入浴支援をしている。菖蒲湯や柚子湯、温泉の湯を運び入れた、温泉の日などを設けて楽しんでいる。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者の体力や能力、経験、趣味など、センター方式を利用して、情報を把握している。日々の生活の中で活かしながら支援に努めており、訪問時にもカラオケを楽しむ姿が見られた。ホワイトデーに家族へ出す絵手紙の一部を作品としてリビングに飾ってある。また、ススキを利用して小さな簾を作り、入居者の写真を貼り壁に飾っている。クリスマスには、皆でハンドベル演奏をし、その時入居者が挨拶を担当しており、それぞれの場面で入居者が参加できるよう配慮している。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>季節と天候に合わせて午前と午後、散歩に出かけコースは色々ある。外出したくない人には、塵だしや回覧を持って行くなどの用事をつくり外出を促している。ホームの買い物時には一緒に出かけたり、個人の買い物も希望により支援している。また、飲食店の協力も得られ、うなぎ、和食、五平餅、喫茶店など外食を楽しむことができる。今後、近くの温泉の足湯に入りに行くことを考えている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>3階のホーム玄関及びテラス出入り口の鍵はかけていない。これまで外階段や屋内階段、エレベーターを使って降り、無断で外出した入居者はいない。帰宅願望者への対応は、本人の気持ちをじっくり聞き思いを把握し、自信につながる役割を持ってもらえるように話をし、気持ちが落ち着くよう配慮すると共に、一人にならないよう気配りしている。また、散歩や外出の機会をつくり気分転換に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内に防災委員会があり、合同で防災訓練を実施している。法人として地域消防団と防災協定を結んでいる。ホーム独自でも入居者も参加して、毎月避難訓練を実施し、避難経路を変えたり、断水、停電を想定して行っている。防災用品はヘルメット、懐中電灯の他、入居者と一緒に作った名前入りの非常用リュックと、それぞれの大事な物リストを書いてもらい、玄関近くに置いている。また、非常食は3日分をメニューを決めて保管している。		ホーム独自で毎月避難訓練を行ったり、防災用品の備えや、職員や入居者の防災意識が高いことから、より困難な夜間を想定した訓練の実施の取り組みに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、食品数1日30品目を基準に1汁3菜とし、1日1,600kcalを目安に、入居者と職員と一緒に献立を考え、法人内の栄養士に見てもらっている。また、「お楽しみの日」があり、ある食材を見ながら皆で考え、希望の献立になるよう努めている。入居者の状態に合わせ、刻み食やミキサー食を作るが、盛り付けたものを見てもらい、本人の希望を聞いて対応している。水分は1日1~1.5を目安に支援している。毎月体重測定を実施して、協力医のチェックを受ける等健康管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エレベーターで3階に昇るとホームがあり、玄関には入居者が書いた「好日庵へようこそ」の書が迎えてくれる。廊下は広く、入居者と職員と一緒に、モップがけを行っている。広いリビングには大きなソファがあり、入居者同士が寛ぐ姿が見られ、加湿器2台が稼働し、健康への配慮がされている。また、お雛様と、桃の花が飾られ、季節が感じられる雰囲気がつくられている。2人に1つのトイレが設置され、ドアは居室と別の色になっており、分かりやすくなっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には壁掛けナースコール、ベッド、タンス、エアコン、洗面台、防災カーテンが備えられ、大きな窓からは外の景色が一望でき、採光も良好な居室になっている。入居者は使い慣れた椅子や小物入れ、大事な方の位牌などを持ち込み、家族の写真や手作りの作品など、その人らしい居室作りがされている。また、模様替えや掃除をする入居者もいるが、職員が状況を見ながらさりげなく支援し、整理、清潔を保つよう配慮している。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。